

この本を薦めます

学会誌編集委員長 佐々木 葉

第14回



山田 菊子

土木学会 教育企画・人材育成委員会
ダイバーシティ推進小委員会 幹事長

今月は、特集のテーマとも関連の深い土木学会ダイバーシティ推進小委員会幹事長の山田菊子さんに、膨大な読書歴の中からそれぞれ特徴ある3冊をご紹介いただきました。

京

都大学土木系学科では唯一の女子学生、就職先の三菱総研

では初の女性総合職採用の一人。そういう経歴もあって、永らく女性技術者に関わる諸活動の場に参加されている。まずこれは別枠でと、ダイバーシティ推進小委員会編集による『継続は力なり—女性土木技術者のためのキャリアガイド—』をご持参いただいた。本書は土木学会創立100周年記念出版の第1号である。

さて、個人的なお薦めの一冊目は



YAMADA-KAWAI Kiko

1964年生まれ。京都大学交通土木工学科卒、同大学院応用システム科学専攻修了。三菱総合研究所、HVC戦略研究所、小樽商科大学ビジネス創造センター准教授等をへて、東京工業大学大学院 研究員。

『理科系の作文技術』。ご自宅には菊

子さんのものとご主人のと2冊ある

というように、理系の多くの方がご存

知であろう。最初に読んだのは学生時

代と思うが折々に読み直し、ご自身の

「仕事の文書」の規範がこの本にある

と確認される。それは文章を書くテク

ニックだけではなく、ものごとを巨視

的から微視的まで、見方を大きく変え

ながら系統的にとらえることの重要

性である。

つづいてロシア語通訳であり文筆

家であった米原万

里の読書日記と書

評を集めた『打ち

のめされるような

すこい本』。子ど

もの頃から本の虫

であった山田さん

は、知人の本棚や

図書館を読む本のガイドとしており、その意味でこの本も大切だが、それ以上に読書とはどういうことかを教えてくれた。つまり読後の感想とは読者の生活の文脈に密接に関連するもので、決して普遍的なものである必要はない。同じ本でも読むタイミングで印象は変わり、だからもつと自由に濫読を進めていけばよいのだと思わせてくれたとおっしゃる。インタビュ前に読んでみた私には、タイトルとはまったく異なり、親しい友人とのおしゃべりのような印象であった。

最後は『リーン・イン—女性・仕事・リーダーへの意欲』。微笑む美人著者の写真に「100万人以上の人生が変わり始めています」という帯の文字。私などはちょっと身構えてしま

理科系の作文技術
木下是雄：中公新書

打ちのめされるようなすこい本
米原万里：文春文庫

リーン・イン—女性・仕事・リーダーへの意欲
シェリル・サンドバーグ：日本経済新聞出版社

継続は力なり—女性土木技術者のためのキャリアガイド—
土木学会ダイバーシティ推進小委員会：土木学会